

学生確保の見通し等を記載した書類（本文）

目次	1
（１）収容定員を変更する組織の概要	2
① 収容定員を変更する組織の概要	2
② 収容定員を変更する組織の特色	2
（２）人材需要の社会的な動向等	3
① 収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	3
② 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	4
③ 収容定員を変更する組織の主な学生募集地域	4
④ 既設組織の定員充足の状況	4
（３）学生確保の見通し	5
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	5
(ア) 既設組織における取組とその目標	5
(イ) 収容定員を変更する組織における取組とその目標	6
(ウ) 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	6
② 競合校の状況分析	6
(ア) 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	6
(イ) 競合校の入学志願動向等	6
(ウ) 収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等	6
(エ) 学生学納金等の金額設定の理由	7
③ 先行事例分析	7
④ 学生確保に関するアンケート調査	7
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	7
（４）収容定員を変更する組織の定員設定の理由	7
1. 医師不足の解消	7
2. 地域医療の貢献	7
3. 高齢化社会への対応	7
4. 研究的思考を備えた医師の育成	8

(1) 収容定員を変更する組織の概要

①収容定員を変更する組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員	収容定員	所在地(教育研究を行うキャンパス)
埼玉医科大学医学部医学科	130	780	埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38 番地

②収容定員を変更する組織の特色

本学は、医学部と保健医療学部の2学部からなる医療系総合大学である。建学の理念に掲げるすぐれた実地臨床医家を養成するため、医学部では以下のディプロマ・ポリシーを定めている。

1. 社会人および医師としての基本姿勢

- (1) 医療専門職としての倫理観、責任感、熱意、誠実さを備えており、それらを基盤として行動する。
- (2) 患者を中心に考え、患者や社会のために行動する。
- (3) 身だしなみ、言葉遣い、態度など、他者と接する基本姿勢を身につけている。
- (4) 自身の裁量権と能力・技術の限界をわきまえ、他者からの協力を仰ぎ、助言を活かす。
- (5) 法規定や社会・組織の規則・規範を遵守し、行動する。

2. 基盤となる医学知識とその応用

- (1) 人体の正常構造と機能を理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。
- (2) 個体の反応を臓器・細胞・分子のレベルで理解し、知識を統合して臨床医学に応用できる。
- (3) 人の行動と心理について正しい知識を有し、臨床実践に応用できる。
- (4) 疾患における病因、病態、診断、治療について、知識を統合し応用できる。
- (5) 人の成長、発達、加齢、老化、死について、知識を統合し応用できる。
- (6) 医療とそれを取り巻く社会に必要な情報技術を正しく理解し、有効に活用できる。

3. 診療技能・患者ケア

- (1) 医療面接において、必要な情報を適切に聴取し要約できる。
- (2) 基本的な診療手技を適切に用いて身体診察を行うことができる。
- (3) 根拠に基づく医療(EBM)に則って症候、病態から疾患を導きだし、治療計画を立案できる。
- (4) 問題志向型医療記録(POMR)で診療録を作成できる。
- (5) 診療情報を適切に要約し、状況に応じて提示できる。

4. 自ら学ぶ姿勢と問題対応能力

- (1) 自身の知識・技能や行動に責任を持ち、生涯にわたって自らの努力で向上し続ける行動力を有している。
- (2) 主体的に学ぶ技能と習慣を身につけている。
- (3) 自らの行動を振り返り、学び続けることができる。
- (4) 解決すべき課題・問題点を自ら発見し、解決していくことができる。
- (5) 卒業時点で修得している知識や技能をさらに深め、研鑽することが必要であることを理解しており、卒後臨床研修への移行の準備ができています。

5. 研究マインド

- (1) 科学的情報を適切に収集し、論理的・批判的に思考できる。
- (2) 医学・医療の発展のために研究が重要であることを認識し、研究の計画、実施、結果の解析、発表などの具体的な過程や手法を理解し、取り組むことができる。

6. コミュニケーション能力

- (1) 患者やその関係者に敬意と思いやりを持って接し、傾聴、共感などを伴う支持的なコミュニケーションを実践できる。
- (2) 適切な情報を患者およびその家族が理解しやすい言葉で伝えるとともに、相手のメ

ッセージを受け取り、相互に理解できる。

7. チーム医療

- (1) 患者、同僚や他職種のメンバーを尊重し、自己の役割と能力の限界を理解し、実践現場で保健医療福祉専門職のチームメンバーと協働できる。
- (2) 患者を含むチームメンバーと目標を共有し、意見の違いを乗り越えて合意形成の過程に参加する。

8. 医療の質と安全の管理

- (1) 医療安全の知識を有し、それに基づいて行動できる。
- (2) 医療資源を適切に活用する必要性を理解し、それに基づいて行動できる。

9. 地域および国際社会の医療

- (1) 医療経済、地域の保健医療福祉介護の制度と資源、ならびに地域医療の現状と課題を理解し、地域医療の実践現場に積極的に参加する。
- (2) 保健医療における国際的課題を理解し、医療における国際貢献の意義を説明できる。
- (3) 医療情報を英語で収集し、その概要を説明できる。

以上のディプロマ・ポリシーに基づき優れた医師を育成するために、平成12年度より6年一貫統合教育を実践し、シミュレーショントレーニングセンターでの臨床技能教育やクリニカルクラークシップなどを通じ、臨床医学教育に力を入れている。また研究的思考(リサーチマインド)を養成するため、正規のカリキュラムとして研究入門ユニットを、課外として研究医養成プログラムや自由な研究活動に従事できる課外学習のプログラムを整備している。

関連する既設組織の令和8年度(2026年度)の状況については、以下の通りである。

【関連する既設組織の状況】

学部・学科		入学定員	3年次 編入学定員	収容定員	所在地
埼玉 医科 大学	医学部医学科	130	-	780	埼玉県入間郡毛呂山町 大字毛呂本郷 38 番地
	保健医療学部	190	-	860	埼玉県日高市 大字山根 1397 番地 1
	看護学科	80	若干名	320	
	臨床検査学科	40	-	220	
	臨床工学科	30	-	140	
	理学療法学科	40	-	180	埼玉県入間郡毛呂山町 大字川角 981 番地
	合 計	320	-	1,640	

(2) 人材需要の社会的な動向等

①収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

全国的な超高齢社会の進行とともに、地域医療の担い手となる医療人の需要は増加している。特に人口の多い埼玉県では、今後も医師の需要増加が見込まれている。この様な状況下、埼玉県や関係機関の努力により本県の医師の数は増加傾向にあるものの、北部や秩父などの一部の医療圏では、人口あたりの医師数が県平均を下回っており、地域間格差の解消が課題である。

また、診療科別でも医師の増加数や増加率に差があり、一部の診療科ではさらなる医師の確保が必要とされる。こうした背景を受けて、埼玉県では医師の確保・派遣と支援を強化するための対策が進められており、臨床研修医の増加対策や医療従事者向け教育・研修施設である地域医療教育センターの活用なども行われている。

埼玉県のような人口密集地域では、医療従事者の数が不足すると地域医療に支障をきたす可能性もあり、地域医療の担い手を増やすために医学部の収容定員を増加させることは、県内の医療体制強化と医師不足の解消に寄与する地域社会のニーズがあると考えている。

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

全国的に少子化に伴う 18 歳人口の減少傾向は進行しており、以下の表で示した首都圏 1 都 3 県の 10 年間の 18 歳人口の推移でも 2025 年は増加しているものの、減少傾向は明らかである。大学への進学者数も比例して減少する可能性が考えられるが、首都圏は地方に比べその減少傾向は緩やかに推移していくと見込んでいる。

本学は首都圏に位置しており、本学医学部に在籍する学生の出身地の約 6 割が首都圏であることから、入学定員を充足できる環境は整っているものと考えている。

【18 歳人口 10 年間の推移】

単位（人）

西暦(年)	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
東京都	103,209	105,367	104,234	106,867	104,990	105,038	103,645	103,668	99,904	104,398
埼玉県	69,561	69,723	68,622	69,631	68,713	67,925	66,150	65,815	64,016	65,974
千葉県	58,155	58,930	58,576	58,566	58,386	57,672	56,349	56,326	54,402	56,255
神奈川県	86,598	85,760	84,647	86,770	84,061	82,551	80,993	80,345	77,475	80,600

出典：住民基本台帳による東京都の世帯と人口、埼玉県人口統計、千葉県統計情報、神奈川県人口統計（2025 年「18 歳単独」の人口は非公表であるため、神奈川県将来推計 15～19 歳の 5 歳階級人口を単純按分した推定値）

③収容定員を変更する組織の主な学生募集地域

本学医学部は、東京都、埼玉県からの進学者*1 が約半数を占めており、この傾向は今後も続いて行くと考えている。

特に埼玉県は本学の所在県でもあること、県内における医師の地域間格差、診療科偏在の課題を克服する必要があることから、埼玉県内の高校と連携を図り学生募集活動を進めていく。*1 資料 1 【2025 年度 都道府県別在学学生】参照

【添付データ】

- ・新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）

④既設組織の定員充足の状況

医学部における直近 5 年間の志願者、入学定員及び入学者状況は以下の通り。

選抜年度	入学定員	総志願者数	入学者数	入学定員充足率
2021 年度	130 名	4,389 名	130 名	1.00
2022 年度	130 名	4,610 名	130 名	1.00
2023 年度	130 名	3,773 名	130 名	1.00
2024 年度	130 名	3,846 名	130 名	1.00
2025 年度	130 名	5,234 名	130 名	1.00

医学部医学科における直近 5 年間の定員充足率は地域枠・研究医枠含め 100%であるため、2026 年度選抜についても十分充足すると考えられる。

保健医療学部は 4 学科のうち、臨床検査学科と臨床工学科は定員未充足の状況については是正措置としてのご指摘をいただいております。定員充足率を満たしているのは看護学科のみである。さらに、入学志願者応募状況等を鑑み、入学定員減のために令和 7 年度より保健医療学部収容定員を変更した。なお、令和 7 年度入学者選抜の志願者数は依然として厳しい状況であり、結果として収容定員充足率の改善に繋げることができなかった。その一方で、志願者増に向けた対策は改善を重ねているが、成果がもたらされるには一定年数が必要であり、しかも必ず良い結果を得られるとは限らない。加えて、職業として臨床工学技士の認知度が低いこともあるのか、臨床工学科は一段と厳しい状況に追い込まれている。入学定員減が定員充足率の改善に直結するわけではないことを十分に認識した上で、令和 8 年度入学者選抜に向けて、4 学科それぞれ

の入学定員を確保し、かつ収容定員を充足させるべく志願者募集に全力で取り組んでいる。

保健医療学部 収容定員充足率

(単位：倍)

学 科	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
看護学科	1.03	1.02	1.04	1.03	1.05
臨床検査学科	0.90	0.82	0.70	0.61	0.62
臨床工学科	0.94	0.90	0.85	0.64	0.59
理学療法学科	0.96	0.93	0.92	0.83	0.86

保健医療学部 入学定員充足率

(単位：倍)

学 科	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
看護学科	1.02	1.10	1.11	1.09	1.08
臨床検査学科	0.79	0.60	0.66	0.51	0.73
臨床工学科	0.73	0.70	0.60	0.45	0.47
理学療法学科	0.84	1.00	0.84	0.72	0.98

保健医療学部 入学定員減内訳

(単位：人)

学 科	入学定員	3 年次編入学定員	収容定員
看護学科	80	10 (若干名)	340 (320)
臨床検査学科	70 (40)	設定なし	280 (160)
臨床工学科	40 (30)	設定なし	160 (120)
理学療法学科	50 (40)	設定なし	200 (160)

※カッコ内は令和 7 年度定員減後の人数。

【添付データ】

- ・既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近 5 年間）（別紙 2）

（3）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

（ア）既設組織における取組とその目標

本医学部は、本学の建学の理念、アドミッションポリシーを理解し、入学後のミスマッチが生じないように募集活動を行っている。

配付物として、建学の理念等を記載した大学パンフレットや学生募集要項、入学者選抜概要、地域枠制度を要約したリーフレットを備えている。また、北部医療圏、秩父医療圏の医師不足解消を目的に文部科学省より選定された「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」事業のリーフレット*2 も配付物として利用している。

上記配付物を、オープンキャンパスや全国で実施される進学相談会、高校訪問や高校教員向け説明会などで配付している。

いずれの催物の参加者からも志願者がおり、結果として過去は埼玉県地域枠・研究医枠を含めた入学定員を確保していることから、2026 年度選抜においても、入学定員

を確保できていると考えている。

*2 資料 2【埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成】参照
【添付データ】

・既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙 3）

（イ）収容定員を変更する組織における取組とその目標

本学の建学の理念・埼玉県地域枠・研究医枠の制度趣旨を理解し、入学後のミスマッチが生じないことを目標に、オープンキャンパスや進学相談会等の募集活動を行う。

（ウ）当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

【オープンキャンパス】

オープンキャンパスでは、模擬講義、シミュレーショントレーニングセンターでの見学、質問コーナーなどのプログラムを実施するとともに、講演ビデオのオンデマンド配信も行った。過去 2 年とも参加者のうち約半数が受験し、うち入学率は約 6～13%程度。入学者のうち、埼玉県地域枠の入学者は 2023 年度入試で 2 名、2024 年度入試で 5 名、2026 年度でも相当数の地域枠の確保が見込まれる。

【進学相談会・入試説明会】

過去 2 年とも参加者のうち半数以上が受験し、うち約 6%が入学している。入学者のうち埼玉県地域枠の入学者は 2023 年度入試で 5 名、2024 年度入試で 6 名であった。2026 年度入試でも同数以上の確保が見込まれる。

【高校訪問・高校教員向け説明会】

過去 2 年とも訪問校と説明会参加高校の出身者が多数受験し、うち約 8～10%が入学している。入学者のうち埼玉県地域枠の入学者は 2023 年度入試で 10 名、2024 年度入試で 10 名であった。2026 年度入試でも同数以上の確保が見込まれる。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

（ア）競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

【競合校について】

獨協医科大学

設定観点	選定理由
学 校 種	私立の医科大学
定員規模	医学部 126 名 看護学部 145 名で本学の定員、学部学科構成の類似性
学問分野	医学部、看護学部看護学科の医療系大学であり、学問分野の類似性
所 在 地	ともに東京都の北に位置する関東の私立医科大学である共通点
学 力 層	私立の医科大学として、多数の併願者の存在

【競合校との比較分析】

6 年間学費は、本学の方が 200 万円ほど高いが、埼玉県地域枠については埼玉県地域枠奨学金の他、特待生待遇として 550 万円を支給（免除）し、経済的負担の軽減を図り、受験しやすい環境を整えている。

（イ）競合校の入学志願動向等

競合校の入学志願状況については、下表のとおりとなっている。過去 3 年間の志願者数の状況と（3）②アの分析結果を考察しても定員増加については、問題なく充足できるものとする。

選抜年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
2022 年度	120	3,730	3,336	234	121	1.01
2023 年度	120	2,901	2,659	216	122	1.02
2024 年度	126	4,918	4,645	263	125	0.99

（ウ）収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

競合校の地域枠は一般選抜だったこともあり辞退者のため定員未充足となったようだが、本学は原則専願の学校推薦型選抜のため辞退が考えづらく、定員は充足できると考

えている。

(エ) 学生納付金等の金額設定の理由

他大学に比べ、本学の学生納付金はやや高めの設定であるため、特待生制度を活用し550万円を免除*3することで、受験生の経済的負担の軽減となると考えている。

*3 資料3【2026年度（令和8年度）入学者選抜奨学金案内】参照

③ 先行事例分析

該当なし

④ 学生確保に関するアンケート調査

【地域枠入学選抜状況】

単位：人

選抜年度	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
2022年度	19	34	33	19	19
2023年度	19	42	42	19	19
2024年度	19	55	55	19	19

過去3年間の志願者も定員の2倍程度は確保し、入学定員を充足しているので2026年度選抜も十分に充足するものとする。

【研究医養成プログラム】

単位：人

選抜年度	募集定員	申請者数	受験者数	合格者数
2022年度	3	2	2	2
2023年度	3	3	3	3
2024年度	3	3	3	3

研究医養成プログラムは2年次に募集し3年次より実施している。過去3年間で在学生の中から申請者がおり、選考の結果、研究医養成プログラム履修者（合格者）がいることから2025年度も充足するものとする。

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

埼玉県将来人口の推計によると、2020年をピークに埼玉県人口の減少*4に転じるとしているが、依然県人口は全国トップクラスであり潜在的に医療需要が高いといえる。2012年から2021年の過去10年間の医師増加数は2,536人（全国5位）、増加率23.7%（全国1位）であるものの、県北部（増加人数31人、増加率4.6%）、秩父（増加人数▲10人、増加率▲6.9%）とその増加人数・増加率には地域間格差*5があり、引き続き医師の需要が見込まれる。

*4 資料4【埼玉県の将来人口の推計】より

*5 資料5【埼玉県の医師の状況 | 埼玉県の取組 _ KOBATON.med】より

(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由

1. 医師不足の解消

埼玉県は、首都圏の一部であるが医師不足が問題となっている。特に地域医療や救急医療の分野では、医師の確保が難しい状況である。医師の絶対数を増やすためには、医学部の収容定員を増やすことが必要とされており、収容定員を拡大することで、将来的に医師の供給が増え、医師不足の解消が期待できる。

2. 地域医療への貢献

埼玉県は、人口に対する医師の比率が他県と比べて低い地域が存在している。医学部の定員増は、質の高い医師を養成する県民の期待に応える施策であり、医療の質向上に寄与するとともに地域医療への貢献度を更に高めることができ、中長期的な地域医療の充実を図ることができる。また、定員増は地域医療提供体制の強化等を目的として、埼玉県と本学が締結した保健医療に係る連携に関する協定の趣旨に合致すると考える。

3. 高齢化社会への対応

埼玉県も全国的な高齢化の波に直面しており、高齢者人口の増加に伴い医療ニーズが拡大している。この状況に対応していくために、県内唯一の医学部を持つ本学の役

割は大きく、地域医療を担うより多くの医師の育成は急務であり、医学部医学科の収容定員を増加させることは有効な手段である。

4. 研究的思考を備えた医師の育成

医学、医療技術の進歩により、基礎医学、基礎医療の研究の重要性も今まで以上に高まっており、研究的思考(リサーチマインド)を備えた医師の育成が重要になってくる。このような医師を一人でも多く養成するには、収容定員の増加が必要と考える。

上記の課題克服には、多くの学生に教育機会を提供することにより、高度な医療知識と技術を持ったより多くの医師を育成することが必要と考える。そのため、本学における医学部定員増は、県内の医療体制の強化や地域医療の充実、そして医師不足の解消に貢献するための適切な設定として考える。

資料目次

資料 1	2025 年度 都道府県別在学生	10
資料 2	埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成	11
資料 3	2026 年度（令和 8 年度）入学者選抜奨学金案内	13
資料 4	埼玉県将来人口の統計より	15
資料 5	埼玉県の医師の状況 埼玉県の取組 _ KOBATON.med	20
別紙 1	新設組織が置かれる都道府県への入学状況	22
別紙 2	既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）	23
別紙 3	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績	28

資料1

● 2025年度 都道府県別在学生 (2025年度)

九州・沖縄		中国		四国		近畿		東海		北陸		甲信越		関東		東北		北海道
36		12		3		41		55		5		44		569		29		12
福岡	8	鳥取	0	徳島	3	滋賀	4	岐阜	5	富山	2	新潟	11	茨城	24	青森	4	
佐賀	2	島根	2	香川	0	京都	7	静岡	22	石川	3	山梨	8	栃木	24	岩手	4	
長崎	3	岡山	2	愛媛	0	大阪	14	愛知	23	福井	0	長野	25	群馬	38	宮城	9	
熊本	5	広島	7	高知	0	兵庫	11	三重	5					埼玉	198	秋田	1	
大分	4	山口	1			奈良	3							千葉	41	山形	2	
宮崎	3					和歌山	2							東京	197	福島	9	
鹿児島	7													神奈川	47			
沖縄	4																	

●学長からのコメント

地域に貢献するマインドの育成

埼玉医科大学 学長 竹内 勤



埼玉県は、75歳以上人口の増加率が全国一と急速に高齢化が進展しています。県内には、人口集中地区、中山間地区などがあり、それぞれ医療環境は大きく異なり、特に群馬県との県境地域では医療人材の不足が指摘されています。群馬大学や地域医療機関と連携し、埼玉・群馬に愛着を持ち長く地域医療を支える実地臨床医療人の育成を目指します。

県境地域に焦点を当てた教育の実践

群馬大学 学長 石崎 泰樹



群馬県では、人口減少や急速な高齢化が進む中、医師の確保は重要な課題となっております。本事業では、埼玉医科大学と連携し、地域で必要な知識・技能・態度・価値観を共有する医学生の育成に取り組んでまいります。

●知事からのコメント

地域医療体制充実の礎

埼玉県知事 大野 元裕



埼玉県では、急速な高齢化に伴い、医療需要の更なる増加が見込まれていることから、今回の埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業に大きな期待を寄せています。地域住民の暮らしの課題を的確に発見・解決できる力を身につけた優秀な医療人材が各大学から多数輩出され、将来様々な形で県民の健康を守り支えてくれることを期待しています。

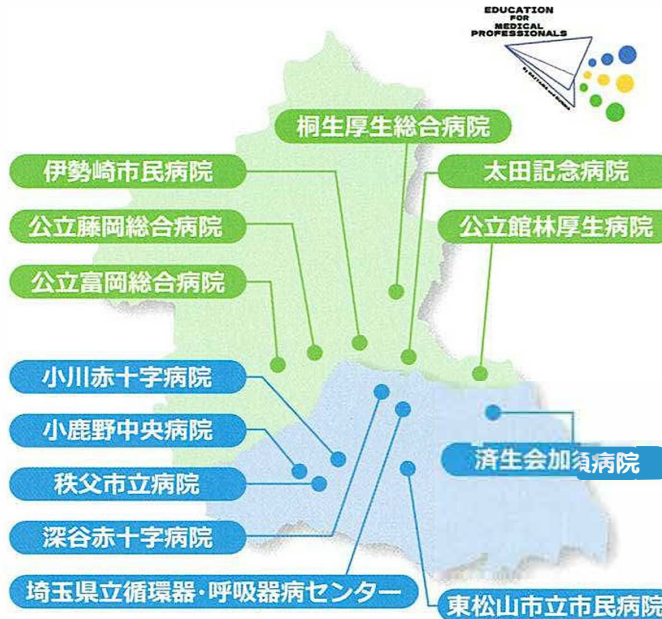
地域に求められる医師を目指して

群馬県知事 山本 一太



群馬県では、医師確保を県政の重要課題の1つと位置づけ、知事が率先して若手医師の確保に取り組む「ドクターズカムホームプロジェクト」を展開しています。本事業を通じて、地域医療に貢献する志を持った医師が多数育成され、両県の医療提供体制の充実が図られることを期待しています。

埼玉・群馬の健康と医療を支える連携医療機関



最新情報は未来医療人HPをご覧ください

<https://sgmirai.jp/>

<お問い合わせ先>

埼玉医科大学

TEL. 049-276-1109 (学務課)

sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp

群馬大学

TEL. 027-220-7111 (代表)

post-corona-g@ml.gunma-u.ac.jp



埼玉・群馬の健康と医療を支える

未来医療人の育成

埼玉医科大学
群馬大学

令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の
医療人材養成拠点形成事業選定
(令和4年度～10年度、7年間)

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成



●育成を目指す未来医療人像

- ◎地域への愛着と地域医療を担う資質・能力・マインドを持った医師
- ◎小児科・産婦人科・救急医療・感染症科、総合診療・プライマリケアから高度・先端医療まで、これから必要となる臨床能力を身につけている医師

●埼玉県・群馬県の共通の課題

- ・県境地域の医師不足
- ・県境地域における埼玉県から群馬県への患者流出
- ・急速な高齢化、診療科偏在



●7年間の育成事業の内容

- ・新しいカリキュラムの展開
- ・動画教材を開発・公開
- ・地域枠医学生のカリヤを支援
- ・実習施設の教育環境を整備
- ・シンポジウムを開催
- ・高校生の地域医療に貢献する志を育成

埼玉・群馬県民の健康長寿の実現

地域医療（埼玉・群馬県地域）を志す学生の質・量の向上

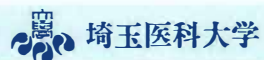
●事業運営体制

事業推進大学 埼玉医科大学・群馬大学
協力機関 埼玉県・群馬県
埼玉県医師会・群馬県医師会
埼玉県立大学
連携医療機関 県境地域13医療機関

新しいカリキュラム

①埼玉県・群馬県の地域を理解する ②人の暮らしを支える ③感染症による危機管理に対応する ④早くから学ぶ・地域で学ぶ

○将来地域で求められるがん医療・難病医療・遺伝医療 ○総合診療・プライマリケア・地域医療の現場での実習



プログラム1：地域を基軸とした優れた実地臨床医家の育成
〔全医学部生対象〕

・在宅医療早期体験実習 ・地域医療とチーム医療の実習

プログラム2：ポストコロナ時代の地域感染症対応人材養成
〔全医学部生対象〕

・総合診療内科感染症実習 ・感染症の臨床推論

プログラム3：地域への愛着を形成する埼玉県の地域医療
〔地域枠学生と希望者〕

・利根川プログラム ・選択必修：総合診療とプライマリケア

1年次の授業

- ・両県の地域医療の現状を映像教材を共有して学習
- ・両大学を遠隔でつなぎ合同演習、発表会実施

共に



学ぶ

1～6年次の授業（利根川プログラム）

- ・県境地域の医療機関の見学実習
- ・両大学を遠隔でつなぎ学びを共有



プログラム4：はじめて学ぶ地域医療

〔医学部医学科地域医療枠学生と希望者、保健学科生・共同教育学部生・理工学部生・情報学部生の希望者（1年次）〕
・地域医療 ・医療行政 ・合同発表

プログラム5：県境地域から学ぶ地域医療集中演習 利根川プログラム

〔医学部医学科地域医療枠学生と希望者〕
・臨地実習バスツアー

2026年度（令和8年度）入学者選抜 埼玉県地域枠医学生奨学金

1. 奨学金の目的と概要

埼玉県と埼玉医科大学が連携して、埼玉県の地域医療を担う医師を養成するために設ける貸与型奨学金制度です。卒業後、貸与期間の1.5倍の期間（9年間）、埼玉県ならびに本学が指定する医療機関又は特定診療科等に医師として勤務することにより、貸与した奨学金の返還が免除されます。

2. 募集人員

19名申請予定＊〔学校推薦型選抜（埼玉県地域枠）〕

＊2026年度（令和8年度）地域枠定員については、文部科学省への認可申請が必要であり19名を予定しておりますが、変更となる場合もあります。詳細が決定次第受験生サイトでお知らせいたします。

3. 出願資格

高等学校又は中等教育学校の在校生および卒業生で、次の条件を満たし、かつ学校長から推薦された者（出身地・出身校は問いません。）

- ① 2025年（令和7年）3月卒業、又は2026年（令和8年）3月卒業見込みの者
- ② 全体の学習成績の状況が4.0以上で、数学・理科・外国語の学習成績の状況がそれぞれ4.0以上の者（指定校出身者は、全体の学習成績の状況が3.8以上で数学・理科・外国語の学習成績の状況がそれぞれ3.8以上の者。指定校であるかは、学校長又は進路担当教員に確認してください。）
- ③ 合格した場合に入学を確約できる者

4. 奨学金貸与額・貸与期間

- ① 奨学金貸与額：月20万円（総額1,440万円）
- ② 貸 与 期 間：入学後6年間

5. 返還免除条件

埼玉県ならびに本学が指定する医療機関又は特定診療科等に貸与期間の1.5倍の期間（9年間）勤務

- ① 指定する医療機関：埼玉県ホームページをご確認ください。
- ② 特 定 診 療 科 等：埼玉県内の病院の産科、小児科、救命救急センター

6. 申請方法

2026年度（令和8年度）医学部学校推薦型選抜（埼玉県地域枠）に出願し、誓約書を出願書類とともに、学生募集要項指定の郵送先に出願期間内に必着するように郵送してください。

7. 審査方法

適性検査、調査書、面接等を多面的・総合的に判断して決定します。

8. 貸与決定

学校推薦型選抜（埼玉県地域枠）の合格通知とともに、奨学金の必要書類をお送りします。

9. 注意事項

埼玉医科大学医学部特別奨学金との重複受給はできません。

●学納金等（通常）

（単位：万円）

項 目	入学時	2年次以降	合計
入学金	200	—	200
授業料	275	275	1,650
実験実習費	100	100	600
施設設備費	150	150	900
医学教育充実特別学納金	100	—	100
教育充実費	—	50	250
合 計	825	575	3,700

* 諸経費は除きます

●学納金等（埼玉県地域枠医学生奨学金受給者）

（単位：万円）

項 目	入学時	2年次以降	合計
入学金	免除	—	0
授業料	275	275	1,650
実験実習費	免除	100	500
施設設備費	免除	150	750
医学教育充実特別学納金	免除	—	0
教育充実費	—	50	250
奨学金貸与額	△240	△240	△1,440
合 計（実質負担額）	35	335	1,710

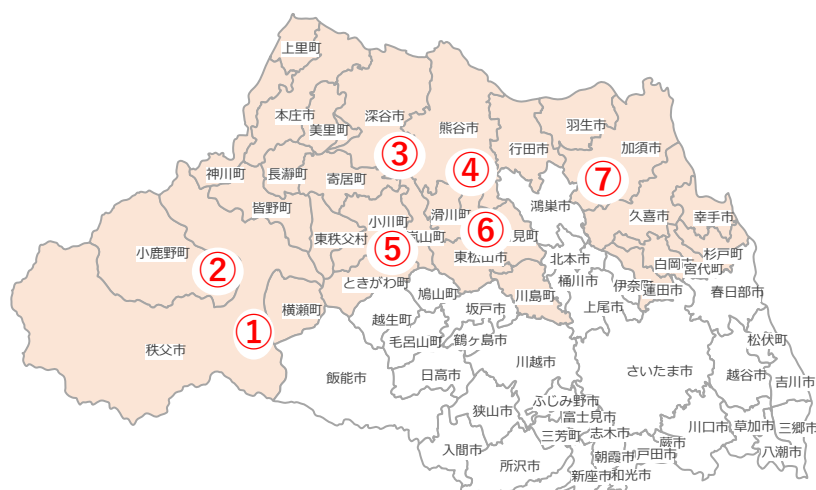
* 諸経費は除きます

さらに、各学年の最終成績が上位10名に入る成績優秀者は、

第3種特待生として次年度学納金のうち100万円が免除され、

最大500万円の免除を受けることができます。詳細は学生募集要項をご確認ください。

【医学部】埼玉県並びに埼玉医科大学が指定する地域医療機関



- ① 秩父市立病院
- ② 国民健康保険町立小鹿野中央病院
- ③ 深谷赤十字病院
- ④ 県立循環器・呼吸器病センター
- ⑤ 小川赤十字病院
- ⑥ 東松山市立市民病院
- ⑦ 済生会加須病院



埼玉医科大学
Saitama Medical University

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38
大学事務部医学部事務室入試課 TEL049-295-1000

埼玉県の将来人口の推計

今後の政策形成の基礎資料とするため、令和2年に実施された国勢調査の人口速報集計の結果等を参考に、令和22年（2040年）までの将来人口の推計を行いました。

推計に当たっては、代表的な手法であるコーホート要因法（※）により、必要となる基準人口、生残率、移動率、子ども女性比、0－4歳性比を下表のとおり想定した上で行いました。

※ コーホート要因法

基準年の人口をベースとして、「自然増減」（出生と死亡）及び「社会移動」（転出入）の人口変動要因について、年齢階級（コーホート）ごとに生残率、移動率、子ども女性比、0－4歳性比を仮定し、将来人口を求める方法。

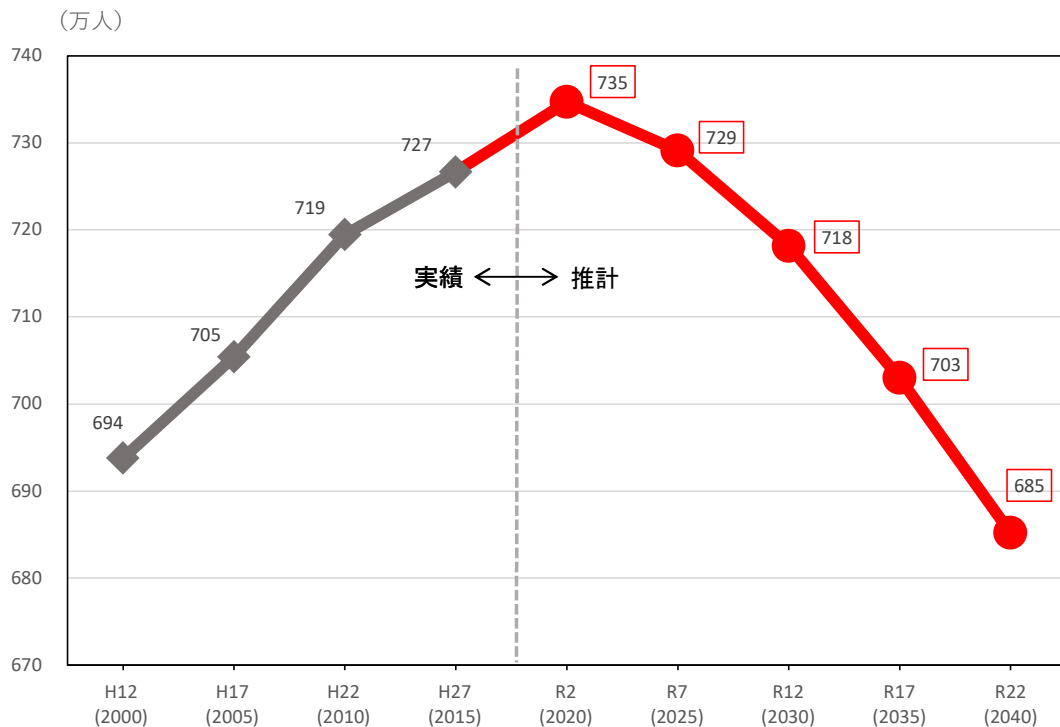
《推計に当たっての想定》

基準人口	「令和2年国勢調査（人口速報集計）」（総務省：令和3年6月25日公表）及び埼玉県町（丁）字別人口調査（令和3年1月1日現在）を参考に設定。 ※「令和2年国勢調査（人口速報集計）」は、市町村毎に男女別の総人口のみ公表であるため、埼玉県町（丁）字別人口調査（令和3年1月1日現在）に基づき、年齢（5歳階級）別に按分
将来の生残率 将来の移動率 将来の子ども女性比 将来の0－4歳性比	「日本の地域別将来推計人口（都道府県・市区町村）」（国立社会保障・人口問題研究所：平成30（2018）年推計）の値を使用。

県全体の人口

本県の人口は734万6,836人（令和2年国勢調査（人口速報集計））となり、緩やかな増加が続いている。しかし、間もなく減少に転じ、令和12年には約718万人となり、令和22年には約685万人と、700万人を割るまでに減少する見通し。

総人口の推移



※ 平成27年までは「国勢調査」（総務省）、令和2年以降は埼玉県推計

年齢3区分別人口

➤ 年少人口（0～14歳）

平成12年から平成27年までの15年間で11万人（約11％）減少。今後も緩やかに減少を続け、25年後の令和22年までに16万人（約18％）減少する見込み。

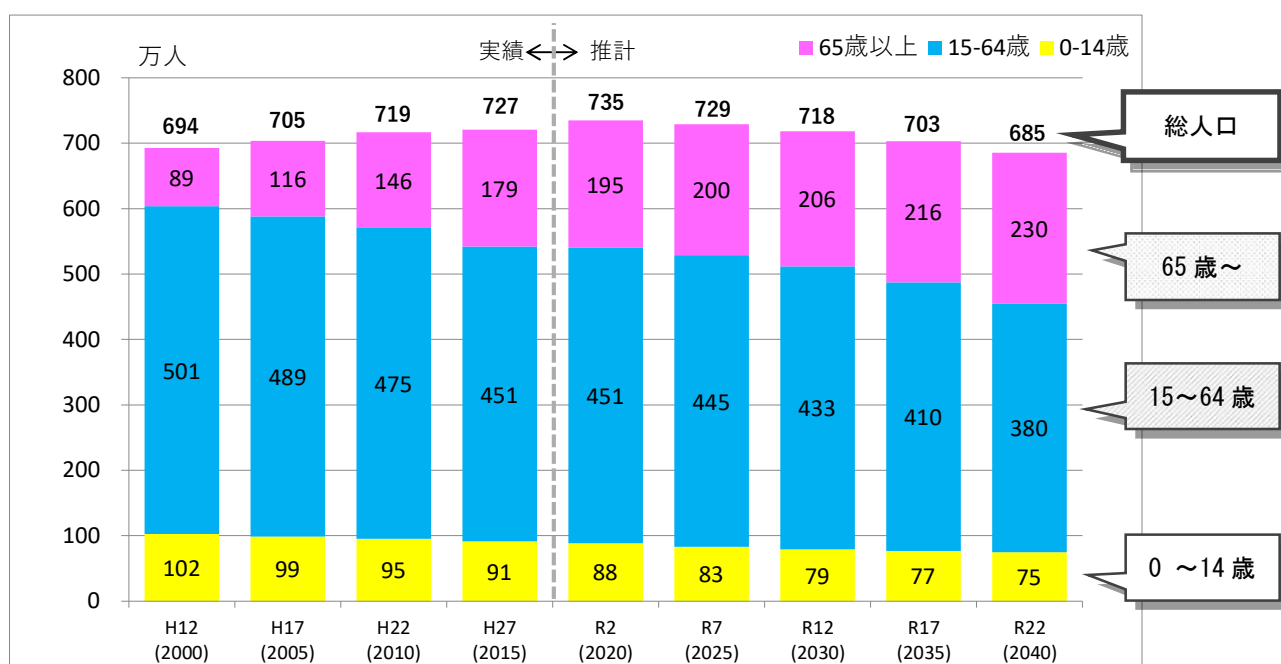
➤ 生産年齢人口（15～64歳）

平成12年の501万人をピークに減少が続く。令和12年には433万人まで減少し、令和22年にはピーク時の約76％に当たる380万人まで減少する見込み。

➤ 老年人口（65歳以上）

平成27年には平成12年の約2倍となる179万人まで増加。令和7年には200万人を突破し、令和22年には230万人に達する見込み。

年齢3区分別人口の推移



※ 平成27年までは「国勢調査」（総務省）、令和2年以降は埼玉県推計

（国勢調査の人口総数には、年齢「不詳」を含むため、年齢3区分別人口の合計とは一致しない。

なお、端数処理の関係で年齢3区分別の合計と人口総数が一致しない場合もある。）

年齢3区分別人口構成比

➤ 年少人口（0～14歳）

平成12年に約15%であった年少人口の割合は、平成17年までに老年人口の割合と逆転し、年々構成比の差が広がっている。令和22年には総人口の約11%まで低下する見通し。

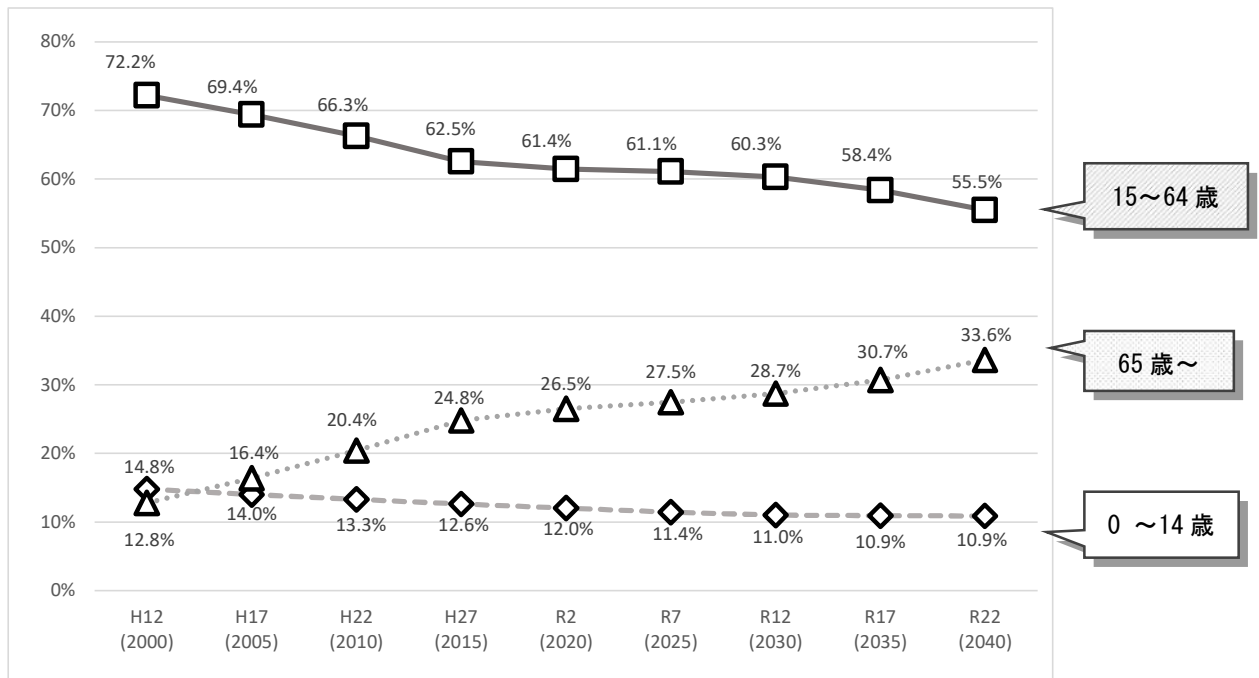
➤ 生産年齢人口（15～64歳）

生産年齢人口の割合は、平成7年の約74%を境に低下をはじめ、平成27年には約63%とピーク時から10ポイント以上低下。令和17年には60%を下回り、減少が続く見通し。

➤ 老年人口（65歳以上）

平成12年には約13%であった老年人口の割合は、平成27年には約25%と、約4人に1人の割合まで急激に上昇。そして令和17年には30%を超え、令和22年には約3人に1人の割合となる見通し。

年齢3区分別人口構成比の推移

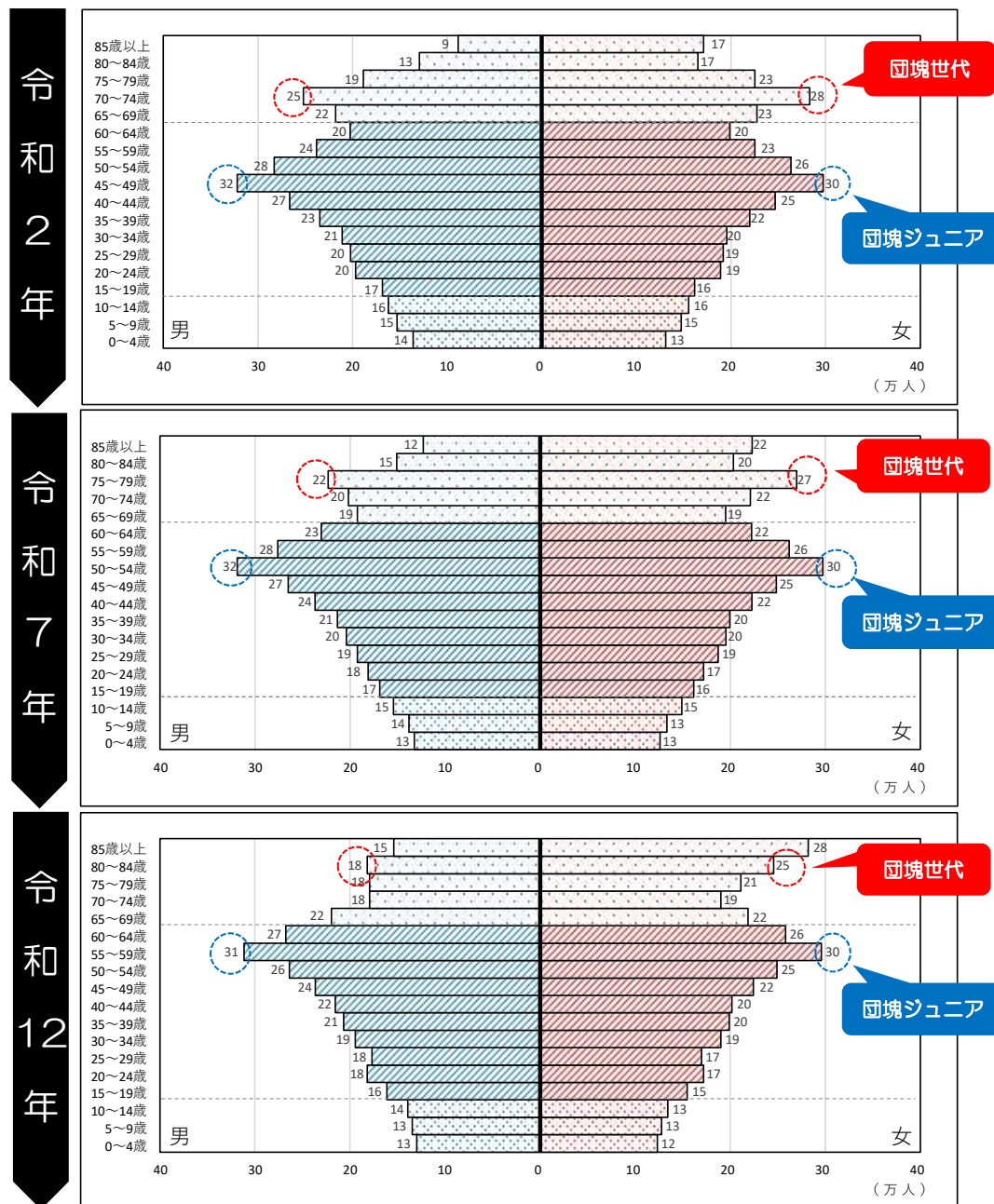


※ 平成27までは「国勢調査」(総務省)、令和2年以降は埼玉県推計
構成比は、人口総数から年齢「不詳」を除いて算出

年齢5歳階級別人口

令和2年の推計では、団塊世代を含む70～74歳（約53万人）は、団塊ジュニア世代を含む45～49歳（約62万人）に次ぐボリュームゾーンを形成。全ての団塊世代が75歳以上となる令和7年には、75歳以上の人口が119万人と急増する見込みです。

年齢5歳階級別人口の推移



※ 埼玉県推計

埼玉県の医師の状況

医師数の状況

最新の医師数の調査（令和4年医師・歯科医師・薬剤師統計）の結果によると、本県の医師総数は13,224人で全国7位となっております。人口が急増してきた本県は、人口10万人当たりの医師数は180.2人で全国最下位となっておりますが、平成24年の同調査からの10年間の医師の増加数は2,536人、増加率は23.7%で全国でも上位となっております。

<全国における順位(R4)>				<医師数の推移>			
	医師数 (人)	全国順位	10万人 当たり (人)	全国順位	平成24年	令和4年	平成24年 → 令和4年
					増加数(人)	全国順位	増加率(%)
埼玉県	13,224	7位	180.2	47位	10,688	13,224	2,536 5位 23.7 1位
東京都	45,562	1位	324.6	5位	288,850	327,444	38,594 13.4
神奈川県	20,588	3位	223.0	40位			
千葉県	13,097	8位	209.0	45位			
茨城県	5,737	15位	202.0	46位			
群馬県	4,465	22位	233.4	37位			
栃木県	4,742	18位	248.4	32位			
全国	327,444		262.1				
【参考】徳島県	2,363	40位	335.7	1位			

※「平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査」（厚生労働省）、
「令和4年医師・歯科医師・薬剤師統計」（厚生労働省）を基に埼玉県作成

[医師・歯科医師・薬剤師統計（厚生労働省）](#)

〇二次医療圏別医師数

利根、北部、秩父医療圏などにおいて、人口10万人当たりの医師数及び10年間の医師の増加率が県平均を下回っています。

種別	平成24年 医師数 (人)	令和4年		平成24年→令和4年	
		医師数 (人)	10万人 当たり 医師数(人)	増加数 (人)	増加率 (%)
埼玉県	10,688	13,224	180.2	2,536	23.7
南部	1,022	1,260	156	238	23.3
南西部	746	1,010	138.2	264	35.4
東部	1,568	1,948	169	380	24.2
さいたま 県央	2,005	2,670	199.3	665	33.2
川越比企	692	948	179.1	256	37
西部	1,678	1,907	241.2	229	13.6
利根	1,351	1,744	227	393	29.1
北部	809	899	142.7	90	11.1
秩父	672	703	141.6	31	4.6
秩父	145	135	147.4	▲10	▲6.9

※「平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査」（厚生労働省）、
「令和4年医師・歯科医師・薬剤師統計」（厚生労働省）を基に埼玉県作成

〇診療科別医師数

着実に医師数は増加していますが、診療科によっては増加数、増加率に課題があります。

求職医師の方

[求職情報の登録](#)

[求人情報の検索](#)

医療機関の方

[求人情報の登録](#)

[求職情報の検索](#)

[看護職員の採用状況等に関する調査](#)

女性医師の方

[埼玉県女性医師支援センター](#)

地域医療教育センター

[地域医療教育センターについて](#)

[利用申請・利用の流れについて](#)

[施設利用状況の確認](#)



Kobaton.med(コバトンドットメド)は
埼玉県総合医局機構の愛称です。

		H24				R4				H24→R4					
		総数	(割合)	人口10万人	順位	総数	(割合)	人口10万人	順位	増加数	順位	増減率	順位		
内 科	和	2,775	26.0%	8	38.5	47	3,083	23.4%	7	42.2	47	318	7	11.5%	12
呼吸器内科	和	159	1.5%	10	2.2	45	238	1.8%	9	3.2	46	77	6	48.4%	8
【参考】呼吸器内科その2					9.6	43				11758.8	43				
循環器内科	和	383	3.6%	8	5.3	46	502	3.8%	8	6.8	46	119	4	31.1%	6
消化器内科	和	395	3.7%	9	5.5	47	548	4.1%	9	7.5	47	153	6	38.7%	5
神経内科	和	138	1.3%	8	1.9	46	201	1.5%	9	2.7	46	63	8	45.7%	14
皮膚科	和	386	3.6%	8	5.4	37	435	3.3%	6	5.9	42	49	6	12.7%	18
アレルギー	和	7	0.1%	8	0.1	14	3	0.0%	12	0.0	30	-4	44	-57.1%	24
リウマチ	和	49	0.5%	6	0.7	21	55	0.4%	10	0.7	40	6	30	12.2%	44
小児科	和	691	6.5%	7	73.4	46	850	6.4%	5	100.4	45	159	2	23.0%	3
精神科	和	550	5.1%	7	7.6	47	667	5.0%	7	8.1	47	117	7	21.3%	8
心療内科	和	19	0.2%	13	0.3	40	25	0.2%	9	340.7	40	6	5	31.6%	8
外科	和	969	9.3%	9	13.7	47	1,105	8.4%	8	15.1	47	136	1	11.7%	1
神経外科	和	270	2.5%	8	3.7	46	292	2.2%	9	4.0	47	22	8	8.1%	16
整形外科	和	763	7.1%	9	10.8	47	877	6.6%	9	12.0	47	114	6	14.9%	6
形成外科	和	74	0.7%	9	1.0	37	134	1.0%	7	1.8	34	60	4	81.1%	13
美容外科	和	17	0.2%	8	0.2	15	40	0.3%	6	0.5	18	23	6	135.3%	19
眼 科	和	548	5.1%	8	7.6	45	615	4.7%	6	0.4	43	67	1	12.2%	5
耳鼻咽喉科	和	366	3.4%	8	5.1	45	389	2.9%	6	5.3	46	23	6	6.3%	12
泌尿器科	和	249	2.3%	8	3.5	47	304	2.3%	9	4.1	47	55	6	22.1%	11
産婦人科・産科	和	426	4.0%	8	27.2	47	476	3.6%	8	32.8	47	50	6	11.7%	12
産 婦 人 科	和	85	0.8%	4	3.0	17	91	0.7%	6	2.8	32	-4	36	-4.2%	30
リハビリテーション科	和	65	0.6%	8	0.9	43	118	0.9%	8	1.6	42	53	8	81.5%	7
放射線科	和	149	1.4%	10	2.1	47	232	1.8%	10	3.2	46	83	4	55.7%	1
麻 酔 科	和	289	2.7%	8	4.0	45	455	3.4%	8	6.2	40	166	2	57.4%	2
救 急 科	和	90	0.8%	8	1.2	38	197	1.5%	5	2.7	30	107	2	118.9%	6
集中治療科	和				45	0.3%	7	0.6	29	45	7				
その他診療科	和	746	7.0%	9	10.3	46	1,239	9.4%	7	18.9	45	493	4	66.1%	3
合 計	和	10,688	100.0%	9	148.2	47	13,224	100.0%	7	180.2	47	2,536	5	23.7%	1

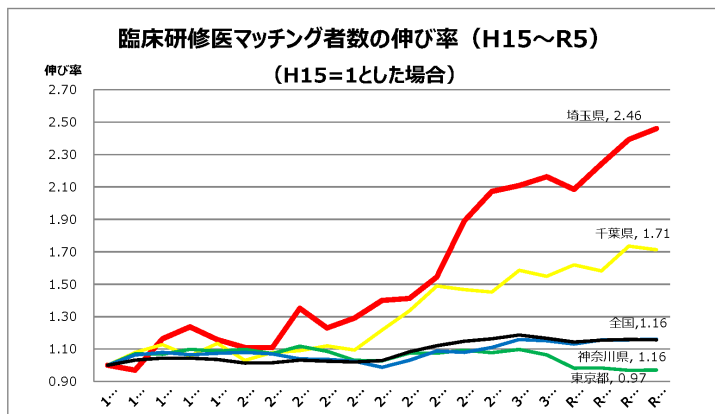
- ※1 内科の医師数は、内科、腎臓内科、糖尿病内科（代謝内科）及び血液内科の医師数の合計である。
 ※2 外科の医師数は、外科、乳腺外科、消化器外科（胃腸外科）、肛門外科、気管食道外科、呼吸器外科、心臓血管外科及び小児外科の医師数の合計である。
 ※3 【参考】呼吸器内科その2の人口10万人対医師数は、65歳以上人口10万人当たりの医師数である。
 ※4 小児科の人口10万人対医師数は、15歳未満人口10万人当たりの医師数である。
 ※5 産婦人科・産科の人口10万人対医師数は、15～49歳女子人口10万人当たりの医師数である。
 ※6 婦人科の人口10万人対医師数は、15歳以上女子人口10万人当たりの医師数である。
 ※7 集中治療科は令和4年度から項目として新たに追加された。

※「平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査」（厚生労働省）、
 「令和4年医師・歯科医師・薬剤師統計」（厚生労働省）を基に埼玉県作成

臨床研修医数の状況

令和6年度から県内で臨床研修を開始予定の医師は406人であり、過去最高を記録しました。
 さらに、現在の臨床研修制度が始まった平成15年からの増加数は241人で全国第1位、伸び率も2.46倍で全国第1位となっています。

（平成15年を「1」とした場合の伸び率の推移）



- ※令和5年10月厚生労働省発表資料を基に埼玉県作成（[データ](#)）
 ※上記は医師臨床研修マッチングにおける人数です。
 医師臨床研修マッチング制度の内容については
[医師臨床研修マッチング協議会のホームページ](#)をご覧ください。

上記の状況を踏まえ、埼玉県総合医局機構では「医師の確保・派遣」と「医師の支援」の二本柱で医師確保対策に取り組んでいます。

埼玉県の医師確保対策事業については[こちら](#)をご覧ください。



埼玉県総合医局機構
 ～Kobaton.med（コバトンドットメド）～
 〒330-8777
 さいたま市中央区新都心1-2
 埼玉県立小児医療センター8階
 地域医療教育センター内
 埼玉県 保健医療部
 医療人材課 医師確保対策担当
 Tel：048-601-4600
 Fax：048-601-4604
 E-mail: a3560-03@pref.saitama.lg.jp
 （埼玉県総合医局機構）
 a3560-02@pref.saitama.lg.jp
 （地域医療教育センター）

求職情報登録
 求人情報検索
 高校生の方へ
 医学生の方へ
 研修医の方へ
 医師の方へ
 医療機関の方へ

埼玉県の取組
 埼玉県総合医局機構とは
 埼玉県の医師の状況
 埼玉県の医師確保対策事業
 医療機関等
 埼玉県医療機能情報提供システム
 埼玉県医師会

利用規約
 サイトポリシー
 ウェブアクセシビリティ方針

【運営】埼玉県保健医療部医療人材課

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	埼玉県	9,863人	36.8%
2	東京都	4,874人	18.2%
3	千葉県	1,593人	5.9%
4	茨城県	1,386人	5.2%
5	群馬県	1,168人	4.4%
	全 体	26,803人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	埼玉県	98.90%	98.03%	93.65%
2				

※ 2 校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	医学	100.51%	100.43%	100.42%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
学校推薦型選抜	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
一般選抜	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
共通テスト利用入試	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
その他の特別選抜	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
合計	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	130人	130人	130人	130人	130人	130
入 学 定 員 充 足 率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
歩 留 率	0.52	0.56	0.58	0.61	0.74	0.60

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
学校推薦型選抜	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
一般選抜	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
共通テスト利用入試	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
その他の特別選抜	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
合計	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	80人	80人	80人	80人	80人	80
入 学 定 員 充 足 率	1.08	1.03	1.10	1.11	1.08	1.08
歩 留 率	0.82	0.76	0.80	0.78	0.85	0.80

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数	3人	3人	3人	3人	10人	4人
	延べ人数	志願者数	7人	6人	2人	6人	22人
		受験者数	7人	5人	2人	6人	22人
		合格者数	4人	2人	2人	3人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	1人	2人	7人
	実人数	志願者数	7人	6人	2人	6人	22人
		受験者数	7人	5人	2人	6人	22人
		合格者数	4人	2人	2人	3人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	1人	2人	7人
	入学者数	3人	2人	1人	1人	9人	3人
学校推薦型選抜	募集人数	22人	22人	22人	22人	15人	21人
	延べ人数	志願者数	25人	29人	16人	27人	10人
		受験者数	25人	29人	16人	27人	10人
		合格者数	24人	27人	16人	24人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	25人	29人	16人	27人	10人
		受験者数	25人	29人	16人	27人	10人
		合格者数	24人	27人	16人	24人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	24人	27人	16人	24人	10人	20人
一般選抜	募集人数	45人	45人	45人	45人	15人	39人
	延べ人数	志願者数	106人	86人	76人	60人	30人
		受験者数	103人	81人	74人	56人	29人
		合格者数	63人	58人	61人	45人	25人
		うち追加合格者数	8人	4人	3人	0人	0人
		辞退者数	38人	36人	39人	24人	15人
	実人数	志願者数	106人	86人	76人	60人	30人
		受験者数	103人	81人	74人	56人	29人
		合格者数	63人	58人	61人	45人	25人
		うち追加合格者数	8人	4人	3人	0人	0人
		辞退者数	38人	36人	39人	24人	15人
	入学者数	33人	26人	25人	21人	10人	23人
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数					
		受験者数					
		合格者数					
		うち追加合格者数					
		辞退者数					
	実人数	志願者数					
		受験者数					
		合格者数					
		うち追加合格者数					
		辞退者数					
	入学者数						
その他の特別選抜	募集人数						
	延べ人数	志願者数					
		受験者数					
		合格者数					
		うち追加合格者数					
		辞退者数					
	実人数	志願者数					
		受験者数					
		合格者数					
		うち追加合格者数					
		辞退者数					
	入学者数						
合計	募集人数	70人	70人	70人	70人	40人	64人
	延べ人数	志願者数	138人	121人	94人	93人	62人
		受験者数	135人	115人	92人	89人	61人
		合格者数	91人	87人	79人	72人	51人
		うち追加合格者数	8人	4人	3人	0人	0人
		辞退者数	39人	36人	40人	26人	22人
	実人数	志願者数	138人	121人	94人	93人	62人
		受験者数	135人	115人	92人	89人	61人
		合格者数	91人	87人	79人	72人	51人
		うち追加合格者数	8人	4人	3人	0人	0人
		辞退者数	39人	36人	40人	26人	22人
	入学者数	60人	55人	42人	46人	29人	46人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	70人	70人	70人	70人	40人	64
入学定員充足率	0.86	0.79	0.60	0.66	0.73	0.73
歩留率	0.66	0.63	0.53	0.64	0.57	0.61

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数	3人	3人	3人	3人	13人	5人
	延べ人数	15人	4人	1人	4人	13人	7人
		15人	4人	1人	4人	13人	7人
		6人	1人	1人	3人	10人	4人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	1人	1人	0人
	実人数	15人	4人	1人	4人	13人	7人
		15人	4人	1人	4人	13人	7人
		6人	1人	1人	3人	10人	4人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	1人	1人	0人
	入学者数	6人	1人	1人	2人	9人	4人
学校推薦型選抜	募集人数	14人	14人	14人	14人	10人	13人
	延べ人数	36人	12人	19人	13人	4人	17人
		36人	12人	19人	13人	4人	17人
		22人	12人	18人	13人	4人	14人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	36人	12人	19人	13人	4人	17人
		36人	12人	19人	13人	4人	17人
		22人	12人	18人	13人	4人	14人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	22人	12人	18人	13人	4人	14人
一般選抜	募集人数	23人	23人	23人	23人	7人	20人
	延べ人数	46人	48人	26人	18人	5人	29人
		41人	45人	26人	17人	5人	27人
		21人	28人	19人	11人	4人	17人
		0人	2人	0人	6人	0人	2人
		1人	14人	11人	8人	3人	7人
	実人数	46人	48人	26人	18人	5人	29人
		41人	45人	26人	17人	5人	27人
		21人	28人	19人	11人	4人	17人
		0人	2人	0人	6人	0人	2人
		1人	14人	11人	8人	3人	7人
	入学者数	20人	16人	9人	9人	1人	11人
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数						
	実人数						
	入学者数						
その他の特別選抜	募集人数						
	延べ人数						
	実人数						
	入学者数						
合計	募集人数	40人	40人	40人	40人	30人	38人
	延べ人数	97人	64人	46人	35人	22人	53人
		92人	61人	46人	34人	22人	51人
		49人	41人	38人	27人	18人	35人
		0人	2人	0人	6人	0人	2人
		1人	14人	11人	9人	4人	8人
	実人数	97人	64人	46人	35人	22人	53人
		92人	61人	46人	34人	22人	51人
		49人	41人	38人	27人	18人	35人
		0人	2人	0人	6人	0人	2人
		1人	14人	11人	9人	4人	8人
	入学者数	48人	29人	28人	24人	14人	29人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	30人	38
入学定員充足率	1.20	0.73	0.70	0.60	0.47	0.74
歩留率	0.98	0.71	0.74	0.89	0.78	0.82

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数					10人	10人
	延べ人数					27人	27人
	志願者数					27人	27人
	受験者数					22人	22人
	合格者数					0人	0人
	うち追加合格者数					3人	3人
	辞退者数					27人	27人
	実人数					27人	27人
	志願者数					22人	22人
	受験者数					0人	0人
	合格者数					3人	3人
学校推薦型選抜	入学者数					19人	19人
	募集人数	22人	22人	22人	22人	15人	21人
	延べ人数	44人	29人	29人	25人	19人	29人
	志願者数	44人	29人	29人	25人	19人	29人
	受験者数	30人	25人	28人	25人	18人	25人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	44人	29人	29人	25人	19人	29人
	実人数	44人	29人	29人	25人	19人	29人
	志願者数	44人	29人	29人	25人	19人	29人
	受験者数	30人	25人	28人	25人	18人	25人
一般選抜	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	30人	25人	28人	25人	18人	25人
	募集人数	28人	28人	28人	28人	15人	25人
	延べ人数	90人	61人	49人	37人	10人	49人
	志願者数	87人	56人	45人	35人	9人	46人
	受験者数	27人	33人	32人	27人	9人	26人
	合格者数	4人	4人	3人	2人	0人	3人
	うち追加合格者数	11人	20人	13人	12人	7人	13人
	辞退者数	90人	61人	49人	37人	10人	49人
共通テスト利用入試	実人数	87人	56人	45人	35人	9人	46人
	志願者数	27人	33人	32人	27人	9人	26人
	受験者数	4人	4人	3人	2人	0人	3人
	合格者数	11人	20人	13人	12人	7人	13人
	うち追加合格者数	20人	17人	22人	17人	2人	16人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数						
	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
その他の特別選抜	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	入学者数						
	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
合計	入学者数						
	募集人数	50人	50人	50人	50人	40人	48人
	延べ人数	134人	90人	78人	62人	56人	84人
	志願者数	131人	85人	74人	60人	55人	81人
	受験者数	57人	58人	60人	52人	49人	55人
	合格者数	4人	4人	3人	2人	0人	3人
	うち追加合格者数	11人	20人	13人	12人	10人	13人
	辞退者数	134人	90人	78人	62人	56人	84人
	実人数	131人	85人	74人	60人	55人	81人
	志願者数	57人	58人	60人	52人	49人	55人
	受験者数	4人	4人	3人	2人	0人	3人
	合格者数	11人	20人	13人	12人	10人	13人
	うち追加合格者数	50人	42人	50人	42人	39人	45人
	辞退者数						

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	50人	50人	50人	50人	40人	48
入学定員充足率	1.00	0.84	1.00	0.84	0.98	0.93
歩留率	0.88	0.72	0.83	0.81	0.80	0.81

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：医学部オープンキャンパス

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	139人	209人	①取組概要 オープンキャンパスでは模擬講義、シミュレーショントレーニングセンター見学、質問コーナーのプログラムを実施するとともに、講演ビデオのオンデマンド配信も行った。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 過去2年とも参加者のうち約半数が受験し、うち入学率は約6～13%程度。入学者のうち、埼玉県地域枠の入学者は2023年度入試で2名、2024年度入試で5名であった。2026年度入試でも同数以上の確保が見込まれる。
うち受験対象者数(b)	139人	91人	
うち受験者数(c)	53人	65人	
うち入学者数(d)	9人	12人	
(受験率 c/b)	38.1%	71.4%	
(入学率 d/b)	6.5%	13.2%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：医学部の進学相談会・入試説明会

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	246人	305人	①取組概要 受験希望者を対象とした外部主催の進学相談会、入試説明会に複数回参加し、本学の特色、入試選抜概要を説明した。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 過去2年とも参加者のうち半数以上が受験し、うち約6%が入学している。入学者のうち埼玉県地域枠の入学者は2023年度入試で5名、2024年度入試で6名であった。2026年度入試でも同数以上の確保が見込まれる。
うち受験対象者数(b)	230人	226人	
うち受験者数(c)	98人	102人	
うち入学者数(d)	13人	12人	
(受験率 c/b)	42.6%	45.1%	
(入学率 d/b)	5.7%	5.3%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：医学部高校訪問・オンライン高校教員向け説明会開催

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	38人	41人	①取組概要 高校訪問（2022年38校2023年34校）と対面&ZOOM高校教員向け説明会（2022未開催2023年23校）を開催し、進路指導教員へ本学の特色、教育制度、入試選抜概要を説明した。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 過去2年とも訪問校と説明会参加高校の出身者が多数受験し、うち約8～10%が入学している。入学者のうち、埼玉県地域枠の入学者は2023年度入試で10名、2024年度入試で10名であった。2026年度入試でも同数以上の確保が見込まれる。
うち受験対象者数(b)	280人	368人	
うち受験者数(c)	280人	368人	
うち入学者数(d)	29人	30人	
(受験率 c/b)	100.0%	100.0%	
(入学率 d/b)	10.4%	8.2%	